

第1回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る 有識者懇談会 結果概要

<日時>

令和8年6月15日（月） 10：30～11：30

<場所>

県庁3階 302会議室

<委員意見>

○小川 光 委員

- ・訪れてもらうことは入口に過ぎず、そこから長く滞在してもらい消費を促すとともに、再訪してもらうという視点が必要。
- ・連携も重要だが、突出したスポットに磨き上げることも重要。
- ・データセンターの誘致はよい考えである。データセンターの立地に必要な要素として、電力、水、敷地の広さ、災害リスクの低さ、通信インフラの5つがあるが、岐阜県にデータセンターが来ていないのは、通信インフラの部分が弱いからだと思われるため、そこに投資して誘致できるとよい。

○金室 紀子 委員

- ・リニア岐阜県駅を起点とする発想だけでなく、東京方面からのリニア利用者、名古屋駅からの来訪者、中部国際空港からの訪日客、既存鉄道・道路等を利用する来訪者など、複数のゲートウェイから同駅周辺へどう結節させるかという視点が重要である。そのうえで、ゲートウェイごとの想定客層や移動経路、周遊テーマを整理し、ターゲットに応じた対策を検討する必要がある。
- ・海外から来られる方にとっては、県域は関係ないため、他県とも連携し、面としてブランディングしていく必要がある。
- ・宿泊施設の不足は課題であるが、大規模宿泊施設の誘致に限らず、地域内に点在する小規模宿泊施設を一体的に活用する分散型ホテルの考え方や、セントラルキッチン、清掃、予約管理等のバックヤード機能の共有により、コンパクトな宿泊施設の運営を可能としている地域事例も参考になる。リニア開通工事期間中の見学需要などを契機に、まずは日帰り来訪を促し、その後、滞在時間の延長や宿泊環境の整備へとつなげるなど、段階的な誘客・受入戦略があるとよい。

○倉内 文孝 委員

- ・東濃・可茂圏域から県内に広げていくには、リニア岐阜県駅からどこに、どうやって行ってもらいたいかを考えるべき。
- ・下呂は最もポテンシャルがありそこへのアクセスのため、広域の幹線バス等の二次交通の整備が非常に重要。
- ・普通列車しか停車しないＪＲ美乃坂本駅をどのように活用し、どういった機能を持たせるかも非常に重要。
- ・リニア岐阜県駅から、観光や宿泊をして、岐阜羽島駅まで周遊させることは県として非常に効果が高い。濃飛横断自動車道ができた時に、どうやって回ってもらうのかを同時に考えていく必要がある。
- ・リニア中間駅を持つ他の自治体との連携を検討していくとよい。
- ・リニアの関連工事で県内に入っている人もいるため、工事が終わってもそこに住んでいただけるとよい。

○谷口 綾子 委員

- ・県が公表している『リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくり』の具体的な方向性に、子育てや医療が入っているのはよい。
- ・中津川市や恵那市、伊那市、飯田市は文化的に似ているところがあるので、広域的な視点で連携していけるとよい。
- ・県民参加の視点が必要。大人だけでなく、小学生など次代を担う世代のシビックプライド醸成につなげるため、教育委員会と連携して、副読本の作成や工事現場の見学ができるとよい。

○三井 栄 委員

- ・2024年の中津川の人流データでは、前泊は名古屋やセントレアで、後泊は下呂や高山となる傾向。
- ・台湾の方は馬籠宿に寄るがそのまま通過してしまう。オーストラリア、スペイン、イタリアなどは中津川に泊まっているが、宿泊施設が足らず、すべてを賄いきれていない。
- ・リニアが開業した時に、宿泊も周遊もできるようにしていく必要がある。

○森下 晶美 委員

- ・岐阜のブランド、売りを明確化すべき。観光は関係者が大変多く、それぞれが違うイメージを持っていると前進しない。大きなテーマでよいので掲げ、関係者皆で同じ方向に向かっていくことが重要。
- ・観光客の数と観光の質のバランスをうまくとっていくことが重要。
- ・体験観光は従来の見る観光と比べると、手間がかかるため人手と人材が必要になる。『リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくり』の具体的な方向性」の「2 首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち」とリンクするが、人材の育成・確保も同時に進める必要がある。

○竹内 治彦 座長

- ・個々の観光資源を更に磨いていく必要がある。例えば中津川市の明治座という芝居小屋では、地歌舞伎だけでなく音楽イベントも開催される。こういうものもブラッシュアップできると思う。
- ・宿泊施設は足りないというより、無いのだと思う。県内では、通年で観光が成り立たないような場所が多いので、宿泊施設を充実させていくことは難しい。岐阜県の宿泊をどう作っていくのかという視点が計画に盛り込まれるとよい。
- ・リニア岐阜県駅や中部総合車両基地の工事現場は、高度成長期を思わせる大規模開発であり、ぜひ小学生などに見てもらおうとよい。工事はすべてうまくいっているわけではないので、そういった困難を理解し、どう克服していくかについて、中・高校生に学んでもらいたい。気運を醸成するためには、こういった小・中・高校生の視察を充実させるとよい。
- ・車両基地ができることが岐阜県の最大の特徴。車両基地、駅、道路の開発全体を通して、開通まで、関心を集めていくための取組を進めるべき。